

キャノングローバル戦略研究所（CIGS）

ミハイル・ハジンセミナー

『世界経済発展の諸問題について、ロシアから
見た量的緩和などの欧米諸国の金融政策の評価』

【質疑応答の概要】

日付: 2018年11月14日

場所: キャノングローバル戦略研究所 会議室

小手川 大助（キャノングローバル戦略研究所 研究主幹）：

クエスチョンアンドアンサーのセッションに移る。

質問者 1：プーチン大統領は領土問題を解決する前に、日本との経済交流への興味を示しているが、そのことについてどのようにお考えか。

ミハイル・ハジン氏(Russian economist and President of Mikhail Khazin Economic Research foundation)：

どのような問題であっても、共通のプラットフォームがあって初めて解決できると確信している。今後、両国の間に共通のプラットフォームができれば、領土問題も解決できるかもしれない。しかし、現時点では何の効果も結果も出ないと考えている。

質問者 2：今年の7月、ロシアは保有していた米国債を大量に売った。この背景にはどのような意図があるのだろうか。

ハジン：現在、ロシアの中央銀行は、IMFの政策を実施するという立場をとっている。従って、この販売が政治的な行為だったとは考えがたい。つまり、戦術的なアクションだったのではないかと思う。

ロシアは今のところ、他の国々と同じようにブレトン・ウッズ体制に留まろうという意思を持っている。政治的にも経済的にも、それに代わるコンセプトを誰も見出だせていないからである。

政治的には、トランプとプーチン、習近平も入っているかもしれないが、一つの合意が見え始めている。連邦準備制度の政策の問題についての合意である。10年後にドル体制が現在と同じような形で維持されることはない。その意味において、トランプは自分に異論を述べる人の中に未来があると考える向きがある。このようなことから、今後の予想できるのは、日本とロシアが親密になることである。

質問者 3：「世界的なドルシステム」崩壊後に、ロシアと日本に残された経済のフォローシステムとはどのようなものか。また、戦後のブレトン・ウッズ体制、FRBシステム、特に法定準備制度によって、弱者から奪う経済に変質した。この奪う経済を与える経済に変えるためには、法定準備制度をどのように変えていけば良いとお考えか。

質問者 4: ソビエト連邦が崩壊してロシアになって以降、現在もルーブルは金へリンクしているのか。あるいはドルへのリンクに戻ったのか。また、将来はどうなるべきであろうか。

ハジン: これまでルーブルはドルにリンクしていた。また、1971年8月15日を境にドルは金との兌換を一時停止した。今後も、金の価格は高騰していくであろう。ロシアは金の購入を積極的に進めており、その一方で中国は積極的にドルを購入している。

日本とロシア、トルコとの関係、トルコがユーラシアに入った場合、日本との関係がどのようになっていくかが重要だが、現在この問題に対する回答はない。ファイナンシャルのシステムがどのようになっていくかは不明である。通貨システムについてはイメージを持っている。それぞれ通貨圏に必ず一つのリージョナルな中央銀行が作られ、いわゆる小ブレトン・ウッズ体制が各地域に生まれる。そして、国内の取引は金にはリンクせず、ゾーン間の取引は金にリンクして行われ、その決済をドルにリンクして行うというものである

質問者 5: ブロックチェーンを使用した仮想通貨のように、中央銀行の管理を受けないシステムが出てきているが、これらの技術を通じたシステムの変換についてどのようにお考えか。

ハジン: 電子通貨とクリプト通貨は、とても便利なツールである。しかし、ベースとなる経済モデルを変えることにはならない。また、ブロックチェーンのテクノロジーは、理論的には中央銀行の管理を迂回することを可能にする。投資を受けるに際し、投資銀行の独占を迂回するチャンスを与える。しかし、このツールは現段階ではまだ十分に開発し尽くされていない。ただし、この方向には良い展望があると考えている。

最後に結びの言葉を申し上げたい。現在、資本主義世界は経済発展のベーシックモデルの本格的な変節に立っている。官僚や研究者といった、経済プロセスの運営にあたっている人の大部分は、現状のモデルを変えようとする。つまり、何か新しいモデルをつくるのではなくて、現状のモデルを変えていこうとする傾向がある。

しかし、現在の課題はゼロから新たに一つのきちんとした機構を作っていくことである。新しいモデルを作れる機構を構築していくということなのである。

以上